

茨農セ園研式・イチゴ高設栽培のポット育苗での7月定植

[要約]

茨農セ園研式・イチゴ高設栽培において、前作の栽培株を親株に用いた7月定植法は、開花時期を遅らせることなく、頂花房の収量が向上することで増収する。また、6月～9月上旬までの休閑期に栽培装置を有効活用でき、育苗を省力化できる。

茨城県農業総合センター園芸研究所

成果
区分

技術情報

1. 背景・ねらい

茨農セ・園研式高設栽培では、9月中旬～翌年5月までが装置の稼働期間であり、育苗期間中は休閑期となっているが、装置には灌水機能があり、育苗時の灌水管理に利用可能である。そこで、施設・装置の有効活用と育苗の省力化を兼ねた収量・品質向上のための技術を確立する。

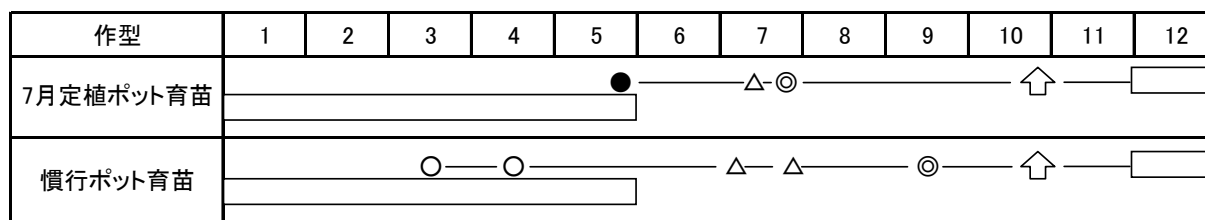
2. 成果の内容・特徴

- 1) 7月定植ポット育苗(以下、「7月定植」という。)とは、収穫を終了した株からランナーを伸ばし、ポットに採苗後、活着したら定植する方法である。定植後は前作の残肥で生育させ、葉色が淡くなったら錠剤肥料の置き肥と葉面散布により慣行ポット育苗(以下、「慣行育苗」という。)と同様に窒素を切る。元肥は慣行育苗と同時期に施用する(図1)。
- 2) 7月定植により、6～9月上旬までの本播栽培装置の休閑期がなくなり、施設の有効利用が可能となる(図1)。また、育苗時の灌水も装置を利用できるため、省力できる。
- 3) 7月定植の頂花房開花時期は、慣行育苗より7日程度早い(表1)が、「ひたち姫」では開花にバラツキがみられる(データ省略)。
- 4) 7月定植の収量は頂花房で優れ、総収量は多くなる(表1)。
- 5) 7月定植の糖度は頂花房でやや劣り、平均糖度もやや劣る(表2)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本試験では、7月～10月中旬まで外張りビニルは除去しているため、外張りを被覆した状態での花芽分化に及ぼす影響は検討する必要がある。
- 2) 定植後、元肥を施用する9月中旬までは前作の残存肥料で生育させるが、早期に肥切れした場合は、慣行育苗と同様に錠剤肥料の置き肥や葉面散布を行う。
- 3) 7月定植では元肥施用は定植後になるが、もみがらを被覆しているマット上に施肥しても肥効は変わらないため、手間はかからない。
- 4) 表中の品種「ひたち4号」は、県生物工学研究所育成の品種登録出願予定品種である。

4. 具体的データ



○:親株定植、●:前作の栽培株のランナーを伸ばす、△:採苗、◎:定植、↑:加温、□:収穫期間

7月定植育苗は、ポットに移植後、根鉢が崩れなければ定植する。

図1 7月定植ポット育苗の作型

表1 7月定植育苗と頂花房開花日および収量^y

作型	頂花房開花日	花房別収量(t/10a)					総収量(t/10a)	
		頂花房	1次腋花房	2次	3次	4次		
7月定植育苗 (A)	10/31	2.30	1.64	1.05	0.74	0.35	6.07	
	11/6	1.87	1.66	1.03	0.66	0.26	5.47	
分散分析	**	**	n. s.	n. s.	*	n. s.	*	
品種 (B)	ひたち4号	11/2	2.23	1.96 a	1.19 a	0.70	0.23 b	6.32 a
	ひたち姫	11/2	1.91	1.53 b	0.93 b	0.70	0.24 b	5.32 b
	とちおとめ	11/4	2.10	1.45 b	0.99 ab	0.70	0.44 a	5.68 ab
	分散分析 ^z	n. s.	*	**	*	n. s.	*	*
A×B	n. s.	**	n. s.	n. s.	*	n. s.	n. s.	

z: *:5%有意、**:1%有意、n. s.;有意差なし。多重比較:Tukey法、異なる英文字間で有意(P<0.05)。Y:7g以上の果実

【栽培概要】

7月定植育苗:ランナー切離(鉢上げ):平成20年7月23日、定植:7月30日、錠剤肥料置肥:8月8日、施肥(N24kg/10a):9月12日

慣行育苗:ランナー切離(鉢上げ):7月23日、錠剤肥料置肥:鉢上げ時、施肥(N24kg/10a):9月12日、定植:9月17日、

栽植:株間20cm、2条千鳥植え、8千株/10a、炭酸ガス施用:11月21日~4月13日、収穫:12月4日~5月28日

表2 7月定植育苗と果実糖度^z

作型	頂花房	花房別果実糖度(Brix%)				平均糖度(Brix%)	
		1次腋花房	2次	3次	4次		
7月定植育苗 (A)	9.5	11.3	10.6	10.5	11.6	10.7	
	9.9	11.4	10.7	11.0	11.8	11.0	
分散分析	**	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	*	
品種 (B)	ひたち4号	9.8	11.7	10.7	10.9	12.2	11.1 a
	ひたち姫	10.0	11.3	10.7	10.6	11.5	10.8 b
	とちおとめ	9.2	11.2	10.5	10.7	11.4	10.6 b
分散分析 ^z	**	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	**	
A×B	*	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	

z:果実全体を潰した果汁をA社製デジタル糖度計PR-100で測定。

y: *:5%有意、**:1%有意、n. s.;有意差なし。多重比較:Tukey法、異なる英文字間で有意(P<0.05)。

【栽培概要】表1に同じ

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

茨農セ園研式・イチゴ高設栽培の高収益型栽培技術開発・平成18~20年度・野菜研究室